

## 農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業

「農福連携における作業分担等の How to 動画制作及び高収益品目の農福連携の実態に関する調査・分析」

### 調査概要

#### ○高収益品目の事例取材先

全国の高収益品目の取材は、下記8か所について実施した。各内容詳細については、報告書本編参照。

NO.	法人名	都道府県	取扱商品
1	社会福祉法人ゆうゆう	北海道	露地野菜、米
2	森林ノ牧場株式会社	栃木県	酪農、乳製品
3	有限会社産直グループこだわり村	埼玉県	ゴマ
4	特定非営利活動法人一粒舎	千葉県	ブルーベリー
5	株式会社アクア菰野辻農場	三重県	水耕栽培(低カリウム野菜)
6	有限会社フジタ	三重県	しいたけ
7	エーゼロ株式会社	岡山県	養蜂(ハチミツ)
8	株式会社 ONE GO	福岡県	いちご

#### ○報告書考察

##### <農業における職域×障害特性マトリクス>

主な障害種別に対して、農業を実施するにあたって得意なことと苦手なことを整理した。

【主な障害種別の特性と農業に対する特性の分類表】

障害種別	得意なこと	苦手なこと
知的障害	<ul style="list-style-type: none"><li>長時間の作業に適正がある</li><li>繰り返し(反復)の作業が得意</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>仕事という概念が捉えづらい</li><li>全体の作業見通しを立てるのが苦手</li></ul>
精神障害	<ul style="list-style-type: none"><li>作業能力・指示理解力においては健常者と変わらない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ノルマや基準をプレッシャーに感じやすい</li><li>日によって波がある</li></ul>
発達障害 (ADHD <sup>※1</sup> )	<ul style="list-style-type: none"><li>作業能力においては健常者と変わらない</li><li>判断基準の明確な作業が得意</li><li>繰り返し(反復)の作業が得意</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>丁寧さに欠ける</li><li>全体の作業見通しを立てるのが苦手</li><li>見えない(土の中等)・抽象的な作業の判断が苦手</li></ul>
発達障害 (ASD <sup>※2</sup> )	<ul style="list-style-type: none"><li>作業能力においては健常者と変わらない</li><li>作業の正確性においては健常者より強いことも</li><li>数字に強い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>コミュニケーションが苦手</li><li>正確な基準での作業にこだわり過ぎてしまい、納得いくまでやり続けてしまう</li></ul>

<資料>農福連携事例を元に ㈱インサイト作成

※1 ADHD:注意欠如・多動性障害・・・不注意(集中力がない)、多動性(じっとしていられない)、衝動性(思いつくと行動してしまう)といった症状が見られる障害

※2 ASD:自閉症スペクトラム障害・・・「コミュニケーションがうまく取れない」「人との関わりが苦手」「こだわりがある」といった特性のある障害

その結果を受けて、農福連携に取り組む場合の職域×特性マトリクス表を作成した（詳細は報告書本編参照）。このマトリクス表においては、露地栽培を想定し、はじめて農福連携に取り組む場合の各作業において、障害特性別に「より適性がある」「適性がある」「状況に応じて適性判断を行う」という3つの指標で整理した。また、適切な支援が十分できた時のマトリクス表も提示し、どこまで職域拡大できるのか、その可能性も併せて示すことができた。

#### <事例からのまとめ>

#### 農福連携への参入パターン

各事例から、参入において以下の傾向があることが分かった。

- ①代表の想い：代表が実現したい社会・取り組みたい課題・生産してみたい品目を想像し、農業を通じて実現させようとする参入方法。新規事業に取り組む際に最も多いパターン。
- ②需要が見込める：高収益品目のため、利益率が高く、一定以上の需要が見込めるから参入されたケース。先述の①代表の想いに加え、さらに②確実な需要・利益を見込んだ、より堅実な参入パターン。
- ③事業承継：近年増加しているのが、事業承継による参入パターン。担い手不足、後継者不在で農業を続けられないときに、障害者が生産の担い手となってこれを支えるパターン。特に障害福祉事業所(就労継続支援 A 型・B 型)を運営する法人が事業承継するケースが増えている。

#### 【農福連携への参入パターン】

参入パターン	法人名	詳細
①代表の想い	森林の牧場 株式会社	・「牛のいる風景」「田舎で暮らす」を実現
	特定非営利活動法人 一粒舎	・「障害者の働く場」をつくりたい ・障害者の活動を地域貢献へ
	株式会社 アクア	・病気によって野菜が食べられない方に向けての商品開発
	有限会社フジタ	・地域で働く場のない障害者を受け入れ自社の戦力に
②需要が見込める	有限会社産直グループ こだわり村	・国産ゴマの生産量減少と世界的な不作を受けて生産を開始
	イーゼロ 株式会社	・地元の資源を活用し新たな特産品を生み出したい
③事業承継	社会福祉法人 ゆうゆう	・地元農家の事業を承継 ・障害者の力を借りながら機械作業が難しい農作業に取り組む
	株式会社 ONE GO	・地元農家の事業を承継 ・ふるさと納税を活用して販路を拡大

#### 定量分析結果

各事例から分析した農福連携を活用した高収益品目への取り組みの定量的な効果を抽出し、整理した(下表参照)。

その結果、経営面への効果としては、「売上拡大」「生産量拡大」「高工賃実現」「雇用拡大」といった効果が見受けられた。

また、高収益品目への取り組みであることから、6次産業化への展開にも繋がりやすいという傾向も特徴的であった。

### 【事例から見る定量分析結果】

法人名	経営面への効果	定量的な効果	効果につながった特徴や取り組み
社会福祉法人 ゆうゆう	生産量拡大	・米14.5→16.5t ・馬鈴薯3.3→3.7t	・福祉の新しい「あたりまえ」を作る ・ECサイトによる全国展開（6次産業化）
森林の牧場 株式会社	売上拡大	・H30：111百万円 →R2：125百万円	・小規模な都市近郊酪農と6次産業化 ・「牛のいる風景」「田舎で暮らす」を実現
有限会社産直グループ こだわり村	高工賃実現	・R2年度の平均工賃 24,260円 ※埼玉県の平均工賃 14,006円	・消費者のニーズに合わせた事業展開で6次産業化にいち早く着手
特定非営利活動法人 一粒舎	売上拡大 高工賃実現	・H30：10.7百万円 →R2：15.3百万円 ・H30：39,406円 →R2：43,077円	・障害者の働く場所創造のために事業開始 ・里山の再生を通して地域貢献 ・ブルーベリー狩り、ソフトクリーム等の6次産業化
株式会社 アクア	高工賃実現	・R2年度の平均工賃 22,408円 ※三重県の平均工賃 16,608円	・消費者の特別なニーズに応えるために低カリウム野菜を栽培
有限会社 フジタ	売上拡大 高工賃実現	・H30：50百万円 →R2：110百万円 ・H30：24,131円 →R2：34,000円 ※三重県の平均工賃 16,608円	・障害者の積極的な受け入れと取り組みやすい作業の提供
エーゼロ 株式会社	売上拡大	・R2：3.6百万円 →R3：4百万円	・障害者の特性を活かした新規事業立上 ・地元資源の活用 ・はちみつ商品の6次産業化
株式会社 ONE GO	生産量拡大 雇用拡大	・ハウス3棟→9棟 ・福岡県の最低賃金 870円を上回る時給で3名の障害者を雇用	・障害者を戦力として事業承継 ・ふるさと納税を活用した事業拡大 ・カットフルーツの6次産業化

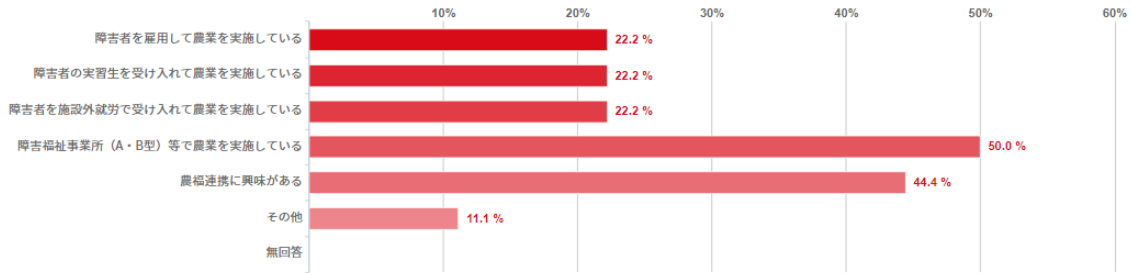
### ○動画結果

- ・ 動画掲載期間：令和4年3月22日(火)～4月30日(土)
- ・ 動画視聴結果：計 2,225 件
  - 露地栽培編 686 件
  - 施設栽培編 445 件
  - 果樹編 394 件
  - できる仕事の見つけ方・伸ばし方 311 件
  - 働きやすい環境づくり 202 件
  - 農福連携の具体的な進め方 187 件
- ・ 特徴
  - 再生回数から、特に露地編、できる仕事の見つけ方に関する関心が高いことがわかった。

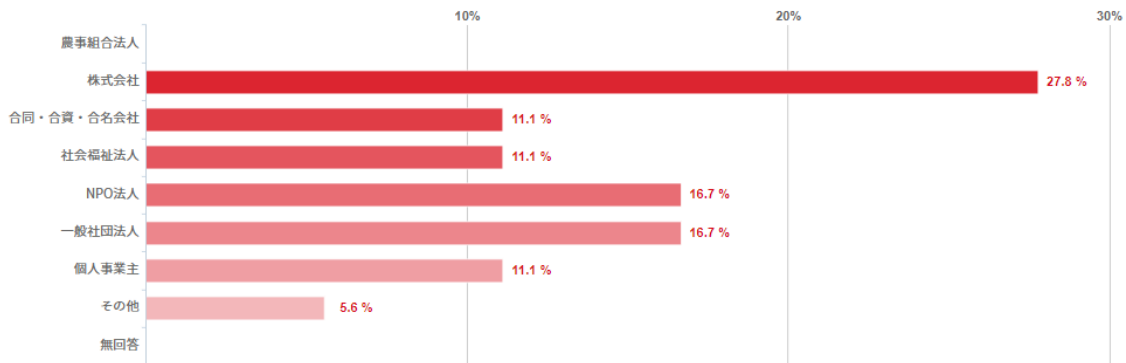
○アンケート結果

- ・ 回収数:18 件
- ・ 回収数は少ないものの、今回の動画を見て参考になった、進められるかもしれない、といった肯定的な意見とともに、実際に取り組んでおられる方からは、農福連携の難しさを感じている意見も併存していることがわかった。

【農福連携の取組状況】



【法人格】



【主なご意見】

Q4S1FA 農業経営について今お感じの課題を教えてください	Q5 法人格
土地やハウス、機材などの投資の元が必ずとれるのか。天候などの自然災害にあった場合はどうするのか。パンフレットや研修では、上手くいっている例ばかりあげているがリスクがどこまであるのかわからない。	合同・合資・合名会社
稲作が主体だと利益が出にくい構造なので 現在は畑での野菜類や柑橘類の栽培を積極的に進めています	社会福祉法人
農業を安全に障害者の方に合った、作業内容にするための、機械化を図るために資金調達とノウハウを教えてください。	株式会社
農業も経営となればなかなか難しい。今は、B型事業所に中間支援で農作業に参加してもらっている。施設の中には経験を積み自信が芽生え、自ら農家から農作業を直接受託し、セルフからの斡旋作業と併用する施設が出てきた。	NPO法人
利用者への指導方法の仕方としてのモデルをみたい。	株式会社
経営的な問題とくに採算性をどう上げていくかでしょう。農福連携も一般の経営と同じように、最終的にはバランスシートがうまく継続的になることだと思います。まだまだ公的な援助が必要な段階です。	一般社団法人
障害者の障害特性をいかに具体的な農作業に活かしていくかのマッチング。	個人事業主
農業の経験がなく難しいと感じていましたが、今回の動画を見て協力し合っていけるかもしれないと感じました。	一般社団法人

以上